

## 製品の特長

セイコー「データグリップ」S701は、ランナー自身で記録管理できる本格的な自己計測用ストップウォッチです。

- 片手操作でタイム計測が可能です。
  - ・片手（左手優先）に装着、操作できる形状になっています。
  - ・スタートからラップ/スプリットの計測まで1つのボタンで操作できます。
  - ・計測を終了させるエンド入力は別ボタンで、不用意に入力しないようになっています。
- 見やすさと安全性にも配慮しました。
  - ・大型パネルを採用し、走りながらでも読みとりやすくしました。
  - ・夜間の使用も考え、パネルのバックライトを備えています。
  - ・バックライトを点灯して時間計測すると、赤色のセーフティランプが点滅して、ランナーの存在を知らせてくれます。
- 時間計測したデータは最大100個までメモリーが可能です。
  - ・スタートからフィニッシュ（最終データ）までの1連のデータをブロックとして残せ、最大50ブロックまでメモリーできます。
  - ・メモリー使用状況はグラフィックで表示されます。



ここに単4乾電池を2本入れます。

- ・+・-を間違えないように入れてください。
- ・+・-極を先に入れるようにしてください。
- ・2本とも新しいものを入れてください。

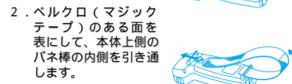
電池ふたの引っかけ部を先にセットし、電池ふた止めネジを時計方向に回し締めてください。



電池ふた止めネジは、約2～3回転で締められますので、それ以上は無理に締めないでください。また、本体のバックシンには、防水性を保つためシリコングリスが塗布されていますので、拭き取ったりしないでください。点灯確認は、「バックライトとセーフティライトについて」を参照。

## ベルトについて

- ・ベルトは、以下の方法によって着脱可能となっております。汗等で汚れた際に洗うことができます。乾電池の交換もベルトを外すとスムーズにできます。
  - ・このイラストでは、ベルトの取付け方を示してあります。外す時は、逆の順序で行ってください。ベルトエンドがぶら下がっている所がパネ棒で止まるまで引いてください。
- SEIKO文字を表にして、本体下側のパネ棒の内側を引き通します。パネ棒の先端がぶら下がっている所がパネ棒で止まるまで引いてください。

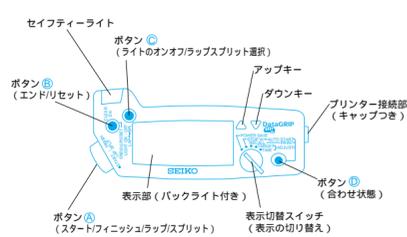


秒合わせについて  
・「秒」を点滅させ時報に合わせてアップまたはダウンキーを押すと、「00秒」に合います。  
・「分」が30～59秒の時、アップまたはダウンキーを押すと「分」が1分繰り上がり「00秒」に合います。  
合わせ終わったら、時刻・カレンダー表示になるまでボタンDを押してください。（どこも点滅しない状態が、時刻・カレンダー表示です。）  
または、表示切替スイッチで時刻・カレンダー表示 [TIME] 以外に切り替えることで、時刻・カレンダー合わせ状態から抜け出すことができます。  
時刻・カレンダー合わせ状態で60～70秒間放置すると、自動的に時刻・カレンダー表示に戻ります。

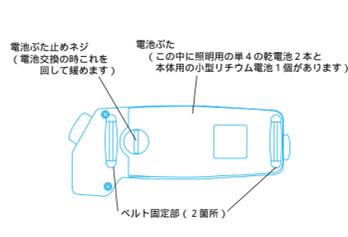
「アップキー」（または「ダウンキー」）を押すと、点滅している数値が1つずつ進む（または戻り）ます。  
合わせやすい方向のキーを選んで合わせてください。（押し続けると早く変わります）  
ただし、「秒」は、アップ/ダウンキーのどちらでも「0秒」になります。  
年は百暦の下2桁を表示します。「95」は「1995年」、「01」は「2001年」のことです。

## 各部の名称とはたらき

【全体正面】



【裏面】

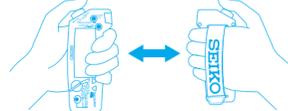


ベルトを装着する前のイラストです。

## 装着のしかた

ベルクロ（マジックテープ）をはがして、ベルトをゆるませ、左手の親指を除く4本の指を入れます。本体を足のひらにつむ感じて握り、親指でボタンAを押し弱い位置でベルクロ（マジックテープ）をしっかりとりとめてください。

深く握るほど、走行中落とすしくくなりますが、親指でのボタン操作がやりにくくなります。何度か操作をお試しの上、ご自分で最適な位置をお決めください。本体前面のアップ・ダウンキーに指がかりますが、ストップウォッチ計測中は無機能ですから、誤作動の心配はありません。



## ストップウォッチの使いかた

ラップタイムは、区間と区間の経過時間を、スプリットタイムは、スタートからある区間までの途中経過時間をさします。

- ・スタートとラップ/スプリットは、1つのボタンで操作ができます。
- ・「スタート、フィニッシュ、エンド方式」の操作方式です。
- ・スタートからフィニッシュまでの1連のデータがブロックとしてメモリーされます。
- ・メモリーがいっぱいになるまでは、すべてのデータがメモリーされます。
- ・スタート機能で、1/100秒単位の10時間計です。（10時間以降は0から計測続行）
- ・ラップタイムは、1/100秒単位の60分計です。（60分以降は0から計測続行）
- ・計測中の表示は「ラップ時間」か「スプリット時間」のどちらかを選択表示できます。
- ・ラップ/スプリット回数は「99」まで表示します。（99の次は「00」に戻って計測続行）
- ・ターゲットタイムを設定しておく、その時間をタイムアップ音で知らせます。
- ・オートスタート機能で、10秒後の自動計測スタートができます。
- ・時間計測中は、セーフティライトの点滅発光ができますので、ランナーの安全に役立ちます。

最後の計測までボタンAで行った後、「エンド入力」をします。ボタンBを2秒以上押し続けると、ビープ音と操作確認音が鳴り、ピーツという長い報音で下段が「End」点滅表示から、フィニッシュデータに切り替わります。上段は消灯し、下段は最終計測データが表示されます。



ボタンBを2秒以上押しなかった場合は、「エンドの入力」が無効となり、フィニッシュデータが表示されません。「エンドの入力」では、時間計測は行いません。「エンドの入力」をした後からは、そのブロックの再スタートはできません。

## ご使用になる前に

- 【単4電池の入れかた】
- ・お買い上げいただいた状態では、照明用の単4電池がセットされていませんので、表示部のバックライトやセーフティライトは点灯しません。
- ・下記の方法で、添付の乾電池をセットしてください。
- ・硬貨（500円硬貨が最適）などで、電池ふた止めネジをゆるめてください。



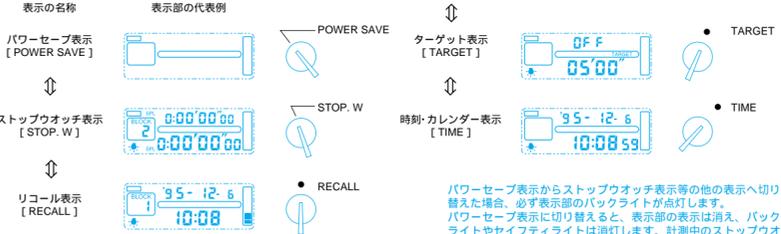
ベルトは電池ふたを外す際にも多少妨げになりますので、あらかじめ外すことをお勧めします。（「ベルトについて」を参照）  
電池ふたを外します。図のようにややスライドさせるようにすると簡単に外せます。



このとき、無理に電池ふたを持ち上げると、引っ掛け部の爪が破損する恐れがありますので、ご注意ください。

## 各表示への切り替えかた

- ・各機能を選択するには「表示切替スイッチ」を使って行います。
- ・表示の切替は計測中等でも可能です。



【パワーセーブ表示からストップウォッチ表示等の他の表示へ切り替えた場合、必ず表示部のバックライトが点灯します。パワーセーブ表示に切り替えると、表示部の表示は消え、バックライトやセーフティライトは消灯します。計測中のストップウォッチは、計測をし続けます。

## 時刻・カレンダーの合わせかた

- ・時刻は24時間制で表示します。
- ・カレンダーは年、月、日を表示します。
- ・年は百暦の下2桁で表示し、1995～2039年までのフルオートカレンダーです。

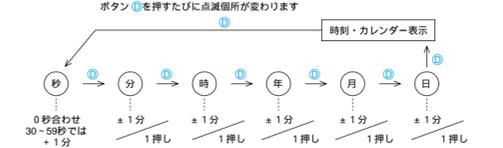
表示切替スイッチを [TIME] に合わせてください。  
バックライトやセーフティライトが点灯または消灯中はこの操作には支障ありません。



ボタンDを押して時刻・カレンダー合わせ状態にしてください。



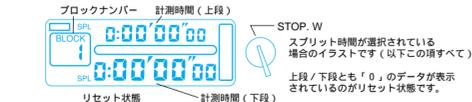
ボタンDを押して合わせたい箇所を点滅させ、「アップキー」または「ダウンキー」で合わせます。



「アップキー」（または「ダウンキー」）を押すと、点滅している数値が1つずつ進む（または戻り）ます。  
合わせやすい方向のキーを選んで合わせてください。（押し続けると早く変わります）  
ただし、「秒」は、アップ/ダウンキーのどちらでも「0秒」になります。  
年は百暦の下2桁を表示します。「95」は「1995年」、「01」は「2001年」のことです。

- ・このブロックナンバーは最高50まで使用できます。
- ・メモリーがいっぱいになると、新しいブロックナンバーは設定されません。（「メモリーの消去のしかた」を参照）

計測のしかた  
表示切替スイッチを [STOP.W] に合わせてください。



リセット状態でない場合は、下記に従いリセットしてください。  
計測中の場合：ボタンBを2秒押し続け、フィニッシュデータが表示される。もう一度、ボタンBを押ししてリセットする。  
フィニッシュデータ表示の場合：ボタンBを押ししてリセットする。

ボタンAを押して「スタート」させます。上下の表示が計測時間を表示します。



ボタンAを押して、ラップまたはスプリット計測します。



「ラップ時間」と「スプリット時間」の表示選択について  
ボタンCを押すと、選択が可能です。スタートしてからでも、いつでもできます。



バーの数	データの数	バーの数	データの数
0個	0～9個	9個	90個
1個	10～19	9個と1個目点滅	91
2個	20～29	9個と2個目点滅	92
...	...	...	...
8個	80～89	9個と9個目点滅	99
		10個全点滅	100

メモリーの中のデータ数が99個および100個になると、新しいブロックへのリセットができなくなります。

計測上の注意  
エンドの入力の後、そのブロックを再スタートおよび積算の計測はできません。リセットからのみ、次の計測が可能です。計測中にメモリーがいっぱいになった場合でも、最終データであるフィニッシュデータは必ずメモリーに残り、その間のデータは表示されてもメモリーには残りません。計測中の上段/下段の表示として「ラップ時間」か「スプリット時間」かのどちらかを選択しても、リコール表示では両方のデータが見られます。スタート後、ラップ/スプリットを1つも取らずにEND入力すると、そのブロックナンバーのままリセット表示になり、計測が行われなかったこととなります。

アップキーとダウンキーを使ってデータを呼び出します。  
アップキーは数字（ラップ/スプリット番号など）が増える方向に、ダウンキーは数字（ラップ/スプリット番号など）が減る方向にデータが呼び出せます。



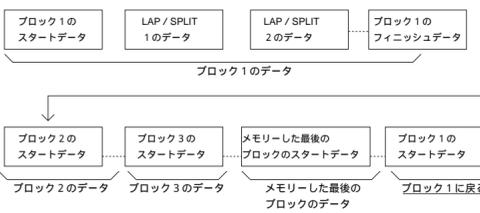
ただし、呼び出したデータによっては、アップ/ダウンキーの意味が変わります。右表を参考にデータを読み出すとき、この表は「あるデータ」が表示されている際、アップ/ダウンキーを押したときに、「表示されるデータ」を示しています。

あるデータ操作	あるブロックのスタートデータ	フィニッシュデータ	計測中のブロックで最新データ
アップキー▲	そのブロックのラップ1データ	次のブロックのスタートデータ	ブロック1のスタートデータ
ダウンキー▼	1つ前のブロックのスタートデータ	前のラップデータ	最新データの1つ前のラップデータ

表中の「ラップ」とは「ラップ/スプリット」のことです。

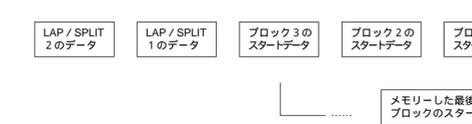
豆知識

アップキーを押していくと、ブロックの中のデータを計測した順番に呼び出し、「フィニッシュデータ」を表示した後、次のブロックの「スタートデータ」を表示します。図で現すと「アップキー」を押すごとに右上図のようになります。



アップキーを押していくと、ブロックの中のデータを計測した順番に呼び出し、「フィニッシュデータ」を表示した後、次のブロックの「スタートデータ」を表示します。図で現すと「アップキー」を押すごとに右上図のようになります。

ダウンキーを押していくと、ブロックの中のデータを計測した順番とは逆に呼び出し、「そのブロックのスタートデータ」を表示した後は、「1つ前のブロックのスタートデータ」「もう一つ前のブロックのスタートデータ」といったように「各ブロックのスタートデータ」のみを呼び出します。図で現すと「ダウンキー」を押すごとに下図のようになります。ブロック3のラップ/スプリット2を呼び出している状態とすると、



1つ前のブロックのスタートデータを次々と呼び出します。

ダウンキーを押していくと、ブロックの中のデータを計測した順番とは逆に呼び出し、「そのブロックのスタートデータ」の呼び出しになる約1秒間表示が固定されます。左図はブロック数が3を超えるメモリーがあった場合を例にしてあります。計測してメモリーされたブロックの量にしたがって、図の順で各ブロックのスタートデータが表示されます。

よって、「ダウンキーでブロックを探し、「そのブロックの各データをアップキー」で呼び出すと覚えてください。

ボタンBの使用について  
・リコール表示で「スタートデータ」以外を呼び出しているとき、ボタンBを押すとそのブロックの「スタートデータ」を表示します。  
・ボタンBを2秒以上押し続けるとデータの消去になりますのでご注意ください。

## メモリーの消去のしかた (データのALL CLEAR)

- こんどきに、メモリーの消去が必要となります。
- a) 不要になった計測データを消したいとき。
- b) メモリーがいっぱい、新しいブロックでのストップウォッチ計測ができないとき。
- c) これから計測しようと思うが、メモリーの残量が少くオーバーしそうとき。
- メモリーの消去はメモリー全部を消すことになります。ブロック単位やデータ単位の消去はできません。

ストップウォッチが計測中の場合はメモリーの消去はできませんので、下記の方法でストップウォッチ計測をフィニッシュさせてください。

- 表示切替スイッチを [ STOP.W ] に合わせます。
- ボタン **B** を2秒以上押し続けてください。

計測中のデータが必要な場合は計測をすませた後、この操作をしてください。

表示切替スイッチを [ RECALL ] に合わせてください。



ボタン **B** を2秒以上押し続けてください。



ボタン **B** を2秒以上押さない場合は、メモリーは消去されません。

## バックライトとセフティーライトについて

- 表示部のバックライトは、必要に応じて点灯 / 消灯が選べます。
- 点灯したライトは、ボタン操作が無い場合60~70分後、自動的に消灯します。
- セフティーライトは、ストップウォッチが計測中で、しかもバックライト点灯中の時のみ点滅し、ボタン **A** の入力があると点滅が早くなります。

条件	ストップウォッチ計測中	ストップウォッチ非計測中
バックライトの点灯を選択 ★マーク点灯	セフティーライトは点灯 (点滅)	セフティーライトは消灯
バックライトの消灯を選択	セフティーライトは消灯	セフティーライトは消灯

上記の設定に合わせているので、バックライトの点灯 / 消灯を選択することで、使用用途に合わせてられます。

バックライトの点灯 / 消灯の選択方法 [ LIGHT ON-OFF ]  
表示切替スイッチを [ TIME ] に合わせてください。  
ボタン **C** を押すと、バックライトの点灯 / 消灯の選択ができます。  
点灯を選択すると「★」マークが点灯します。



バックライトの点灯の方法  
• 電源に乾電池を使用していますので、ライトの照度はだんだん落ちていきます。  
• 寿命切れ近くでは、新品時とはかなり照度の差がでます。  
• 低温においては、新品の乾電池でも暗くなってしまいます。  
乾電池の寿命からライトの照度が暗くなった場合でも、ストップウォッチ計測への影響はありません。

計測と同時にデータを印字したい場合  
• ストップウォッチ計測中に同時に印字することができます。  
• 印字してもメモリーには、通常通り100個のデータまでは残ります。  
ストップウォッチ計測スタート前に、専用プリンターの準備をします。  
• 接続コードをストップウォッチとプリンターにセットします。  
• プリンターの「POWER」スイッチをONにします。  
計測スタートと同時にデータの印字が始まります。

計測スタート前にプリンターの準備ができていない場合、スタート後接続やプリンターの「POWER」スイッチをONにしてもこの機能は使えません。  
メモリーがいっぱいになった以降のデータの印字で、1つのデータを印字に次々と「ラップ/スプリット計測」が行われると、印字が間に合わず、印字できないことがありますのでご注意ください。

識別番号について [ IDの設定 ]  
• ストップウォッチが複数台ある場合、データの印字がどのストップウォッチから出されたものか、わからなくなることがあります。  
• そんなときに、それぞれのストップウォッチごとに識別番号 (ID) を設定してあげれば、印字したデータの識別の助けとなります。  
表示切替スイッチを [ TARGET ] に合わせてください。



ID合わせ状態で「アップキー」または「ダウンキー」を押して、IDを決めてください。  
• IDは1~99の中から選択できます。  
• 「1」の前または「99」の後に「OFF」の表示がでます。  
• 「OFF」はIDをつけない意味となります。

合わせが終わったら、表示切替スイッチを [ TARGET ] 以外に切り替えてください。  
IDは、データの印字の前に設定してある内容が有効になります。よってストップウォッチ計測時に設定なしでも、印字前に設定すれば印字されます。

## 電池交換のしかた

△注意  
• 本体用の小型リチウム電池の交換は、特殊な作業になります。  
• 先のとがったものが必要であること。  
• 交換後、システムリセットスイッチを押すこと。  
• 表示部の「時刻・カレンダー」が所定の表示であるかの確認等。  
よって、お買い上げ店またはセイコー取扱店に交換をご依頼いただくことを、お勧めします。  
お客様ご自身で行う場合は、以下の説明をよくお読みください。

• 電池ぶたを外すと、単4乾電池の交換が可能です。この乾電池の奥に「リチウム電池」があります。通常は、単4乾電池のみの交換が多いと思われます。

交換用電池の仕様  
照明用の単4乾電池・・・市販の「単4マンガン (またはアルカリ) 乾電池」2本  
本体用の小型リチウム電池・・・市販の「リチウム電池: CR2032」1個 (お客様が交換する場合のみ)

△警告  
(1) 交換用の新品の電池や交換後取りだした電池は、幼児の届かないところに保管してください。  
(2) 万一反り込んだ場合は、体に害を与えますので、ただちに医師とご相談ください。  
(3) 破裂、発熱、発火などの恐れがありますので、電池を充電、ショート、分解、加熱、火に入れることは絶対にしないでください。

硬貨 (500円硬貨が最適) などで、電池ぶた止めネジをゆるめてください。  
2~3回転でゆるみます。  
ベルトは電池ぶたを外す際に多少妨げになりますので、予め外すことをお勧めします (「ベルトについて」を参照。)



## 電池交換後のお願い (システムリセット)

電池交換後や万一異常な表示 (読めない表示など) をした場合、「電池交換のしかた」を参照して「AC」(システムリセットスイッチ) を先端のとがったもので押ししてください。  
電池ぶたを外します。  
照明用の単4乾電池を2本とも外します。  
「AC」(システムリセットスイッチ) を押します。  
表示切替スイッチは [ TIME ] に合わせておきます。  
時刻・カレンダー表示が「95-1-1 0:00」になることを確認してください。  
単4乾電池を2本セットし、電池ぶたを締めてください。  
時刻・カレンダーは合わせ直してください。  
(「時刻・カレンダーのあわせかた」参照)  
この操作でメモリーはすべて消去されますので、ご注意ください。

## ターゲットタイムの使いかた

- ある一定の時間の目標タイムに報音させることができます。
- 単なるタイマーとは異なり、ラップ/スプリットを計測した時を基点に設定した時間後に報音します。

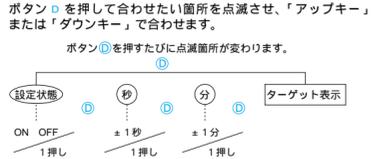


## データの印字について (IDの設定)

この時計からデータを印字するためには、別売の専用プリンターが必要です。ストップウォッチ機能で計測したデータを印字する場合は、専用のプリンターをお買い求めください。(専用プリンターの品番: SVAZ001 小売価格14,800円)

- データの印字はブロック単位で行われます。
- メモリーされている全部のブロックを印字させることもできます。
- ストップウォッチのスタート前から、プリンターを接続し「ON」にしてあげば、データを取るたびに即データの印字が可能です。
- ストップウォッチが複数ある場合を想定した、識別のための「ID」を設定できますので、印字したデータが個人で確認できます。

メモリーに入っているデータの印字  
ストップウォッチが計測中では印字機能は使えませんので、ストップウォッチ計測中の場合は、「エンド入力」をしてください。(ボタン **B** を2秒以上押し)  
表示切替スイッチを [ RECALL ] に合わせてください。  
印字したいブロックを「アップキー」または「ダウンキー」で捜します。  
(「メモリーされたデータの呼び出しかた」を参照)  
印字したいブロックの選択ができれば、ストップウォッチの準備は完了です。



「アップキー」(または「ダウンキー」) を押すと、点滅している数値が1つずつ進む (または戻り) ます。合わせやすい方向のキーを選んで合わせてください。(押し続けると早く変わります)  
ただし、「設定状態」は、アップ/ダウンキーのどちらでも「ON」「OFF」の切り替えになります。「ON」は、ターゲットタイム設定ありです。「OFF」は、ターゲットタイムの設定なしとなり、ターゲットタイムの時間が表示されていても報音しません。

専用接続コード (プリンターの付属品) を、ストップウォッチと専用プリンターとにセットしてください。  
キャップを外して接続コードをセットします。  
接続コードのセット方法は専用プリンターの取扱説明書をお読みください。

専用プリンターの「POWER」スイッチをONにします。

ストップウォッチのボタン **D** を押すと表示されている「ブロック」のデータがプリンターに印字されます。



## 電池についてのお願いとご注意

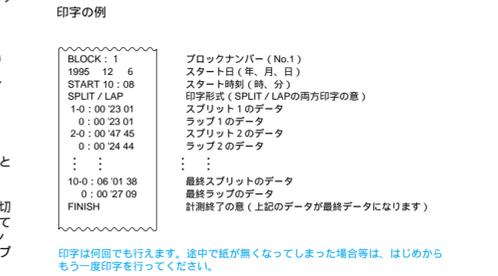
- このストップウォッチには、「本体用の小型リチウム電池1個」と「照明用の単4乾電池2本」の2種類の電池を使用しています。
- これらは電池寿命が異なりますので、必要に応じそれぞれの電池交換をすることになります。
- 1. 電池寿命  
本体用の小型リチウム電池  
このストップウォッチは、新しい電池を組み込んだ場合、その後約3年間作動します。ただし、1日にターゲットタイム音を30回鳴らすことを基準にしていますので、それ以上使用した場合は約3年に満たないうちに電池寿命が切れる場合があります。  
照明用の単4乾電池  
バックライトとセフティーライトを連続で約50時間(マンガン電池の場合)使用できます。アルカリ乾電池の場合、約90時間の連続使用が可能です。  
ボタン操作がない場合、60~70分で自動消灯する機能があります。
- 2. 電池寿命切れ予告機能について  
本体用の小型リチウム電池  
表示部に [ BATT. ] マークが点滅しはじめると、2~3日中に時計が止まる可能性がありますので、お早めにお買い上げ店またはセイコー取扱店にご依頼ください。(本体用小型リチウム電池をお客様が交換する場合は「電池交換のしかた」をよくお読みください)

合わせが終わったら、ボタン **D** を押してターゲット表示にしてください。または、表示切替スイッチを [ TARGET ] 以外に切り替えてください。  
ストップウォッチ表示での使いかた (「ストップウォッチの使いかた」も参照)

ターゲットタイムを決め、設定状態を「ON」にします。  
ストップウォッチ表示にて、計測をスタートさせます。

設定したターゲットタイムの3秒前から、「3」「2」「1」「0」と報音します。  
たとえば、周囲の時間を設定した場合、ターゲットタイムで報音するので、1周するのとは、どちらが早いかで、その周囲のペースがつかめます。  
実際に、周囲ごとにラップ計測をしていくと、周囲ごとにターゲットタイムに対してどうなのかが、つかめます。

ターゲットタイム使用上の注意点  
設定「ON」の場合  
• スタート後は必ず設定時間で報音しますが、その後はラップ/スプリット計測があると、そこから設定時間経過時に、報音します。  
• ターゲットタイムの設定が「0000」の場合は、設定状態が「ON」でも報音しません。  
• ターゲットタイムに満たない状態では、2つまでのラップ/スプリット計測には対応できますが、それ以上は無効となります。1つまたは2つのターゲットタイムの報音が消んでからのラップ/スプリットは有効となります。  
• ストップウォッチ計測中でも、この設定の「ON/OFF」や時間の変更ができますが、それが有効となるのは、ストップウォッチ表示に戻り、新しく計測したラップ/スプリットからです。



印刷は何回でも行えます。途中で紙が無くなってしまった場合等は、はじめからもう一度印刷を行ってください。

5. 電池寿命切れの電池について  
寿命切れした電池をそのまま長時間放置しますと、漏液などで本体の故障となりますので、お早めに交換をしてください。  
特に、照明用の単4乾電池は、未使用時には外しておくことをお勧めします。

電池ぶたの引っ掛け部を先にセットし、電池ぶたを押えながら、電池ぶたを止めネジを締めてください。  
電池ぶた止めネジは、約2~3回転で締まりますので、それ以上は無理に締めないでください。また、本体のバックライトは、防水性を保つためシリコングリスが塗布されていますので、拭き取った方がよいです。  
これで電池交換は終了しました。ご使用前に時刻・日にセットし、合わせてください。(「時刻・カレンダーのあわせかた」参照)

電池ぶたを外します。図のようにややスライドさせるようにすると簡単に外せます。  
このとき、無理に電池ぶたを持ち上げると、引っ掛け部の爪が破損する恐れがありますので、ご注意ください。

乾電池2本を取り出します。  
この後、本体用リチウム電池の電池交換の必要がなく、乾電池のみ交換する場合は、操作に進んでください。



新しいリチウム電池を組み込みます。  
電池のマイナス側を下側にして、電池を組み込み、そのままバネを上から押しつけ、引っ掛け部をしっかりと固定されているか、確認してください。

AC (システムリセットスイッチ)

図のようにリチウム電池の近くにある「AC」と書いてある穴を、先端のとがったもので押下げます。この操作で「ICのシステムリセット」をかけたこととなります。正常にはたらいした場合、表示部の表示が右上図のように、「95-1-1 0:00」になります。

表示が右図のようにならない場合は、「AC」(システムリセットスイッチ) をもう一度押ししてください。

新しく単4乾電池を2本入れます。  
+ - を間違えないように入れてください。  
- 側を先に入れるようにしてください。  
2本とも新しいものをに入れてください。

本体用の小型リチウム電池の交換を行うときは、表示切替スイッチを [ TIME ] に合わせておきます。先端のとがったもの (千枚通しなど) でリチウム電池を押さえているバネを図のように外します。

使用済みのリチウム電池をバネの下から、取り出します。



新しいリチウム電池を組み込みます。  
電池のマイナス側を下側にして、電池を組み込み、そのままバネを上から押しつけ、引っ掛け部をしっかりと固定されているか、確認してください。

AC (システムリセットスイッチ)

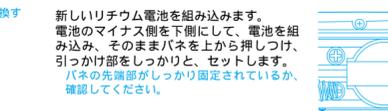
図のようにリチウム電池の近くにある「AC」と書いてある穴を、先端のとがったもので押下げます。この操作で「ICのシステムリセット」をかけたこととなります。正常にはたらいした場合、表示部の表示が右上図のように、「95-1-1 0:00」になります。

表示が右図のようにならない場合は、「AC」(システムリセットスイッチ) をもう一度押ししてください。

新しく単4乾電池を2本入れます。  
+ - を間違えないように入れてください。  
- 側を先に入れるようにしてください。  
2本とも新しいものをに入れてください。

図のようにリチウム電池の近くにある「AC」と書いてある穴を、先端のとがったもので押下げます。この操作で「ICのシステムリセット」をかけたこととなります。正常にはたらいした場合、表示部の表示が右上図のように、「95-1-1 0:00」になります。

表示が右図のようにならない場合は、「AC」(システムリセットスイッチ) をもう一度押ししてください。



新しいリチウム電池を組み込みます。  
電池のマイナス側を下側にして、電池を組み込み、そのままバネを上から押しつけ、引っ掛け部をしっかりと固定されているか、確認してください。

AC (システムリセットスイッチ)

図のようにリチウム電池の近くにある「AC」と書いてある穴を、先端のとがったもので押下げます。この操作で「ICのシステムリセット」をかけたこととなります。正常にはたらいした場合、表示部の表示が右上図のように、「95-1-1 0:00」になります。

表示が右図のようにならない場合は、「AC」(システムリセットスイッチ) をもう一度押ししてください。

新しく単4乾電池を2本入れます。  
+ - を間違えないように入れてください。  
- 側を先に入れるようにしてください。  
2本とも新しいものをに入れてください。

図のようにリチウム電池の近くにある「AC」と書いてある穴を、先端のとがったもので押下げます。この操作で「ICのシステムリセット」をかけたこととなります。正常にはたらいした場合、表示部の表示が右上図のように、「95-1-1 0:00」になります。

表示が右図のようにならない場合は、「AC」(システムリセットスイッチ) をもう一度押ししてください。



新しいリチウム電池を組み込みます。  
電池のマイナス側を下側にして、電池を組み込み、そのままバネを上から押しつけ、引っ掛け部をしっかりと固定されているか、確認してください。

AC (システムリセットスイッチ)

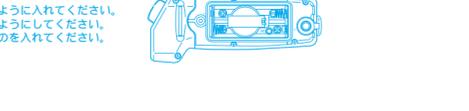
図のようにリチウム電池の近くにある「AC」と書いてある穴を、先端のとがったもので押下げます。この操作で「ICのシステムリセット」をかけたこととなります。正常にはたらいした場合、表示部の表示が右上図のように、「95-1-1 0:00」になります。

表示が右図のようにならない場合は、「AC」(システムリセットスイッチ) をもう一度押ししてください。

新しく単4乾電池を2本入れます。  
+ - を間違えないように入れてください。  
- 側を先に入れるようにしてください。  
2本とも新しいものをに入れてください。

図のようにリチウム電池の近くにある「AC」と書いてある穴を、先端のとがったもので押下げます。この操作で「ICのシステムリセット」をかけたこととなります。正常にはたらいした場合、表示部の表示が右上図のように、「95-1-1 0:00」になります。

表示が右図のようにならない場合は、「AC」(システムリセットスイッチ) をもう一度押ししてください。



新しいリチウム電池を組み込みます。  
電池のマイナス側を下側にして、電池を組み込み、そのままバネを上から押しつけ、引っ掛け部をしっかりと固定されているか、確認してください。

AC (システムリセットスイッチ)

図のようにリチウム電池の近くにある「AC」と書いてある穴を、先端のとがったもので押下げます。この操作で「ICのシステムリセット」をかけたこととなります。正常にはたらいした場合、表示部の表示が右上図のように、「95-1-1 0:00」になります。

表示が右図のようにならない場合は、「AC」(システムリセットスイッチ) をもう一度押ししてください。

新しく単4乾電池を2本入れます。  
+ - を間違えないように入れてください。  
- 側を先に入れるようにしてください。  
2本とも新しいものをに入れてください。